

滋賀の高校生が選んだ！

しがはいすくーるおすすめ本50選

(2019年度優秀作品)

(氏名の有無は本人の希望です) (著者名の50音順に並んでいます)

発行2020年7月 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課



『ぼくがいちばんききたいことは』

アヴィ 著
青山南 訳
ほるぷ出版

この本は、複雑な家庭で暮らすことにも共感と辛い思いをしているのは自分だけではないという心の拠り所。複雑な家庭を作り出してしまった大人にはこどもの感情や辛さへの理解を与えてくれる。そうでない人も、自分の家族に疑問を持ったことが一度はあるだろう。覆しようのない家族の問題について深く考えるきっかけになるはずだ。

たくさんの人が読み、様々な家庭の形や自分の家族への理解を深めてほしい。
(大津高校3年 花岡 凜々杏さん)



『暗黒女子』

秋吉 理香子 著
双葉社

聖母女子高等学院文芸サークルの元会長白石いつみが校内の花壇ですずらんの花を握りしめて死んでいた。いつみに何が起ったのか、いつみは何を伝えたかったのか。その死をテーマにそれぞれの部員が書いた短編小説を朗読し合う形で物語が進んでいくミステリー小説。2017年に映画化された話題作で、ラストのどんでん返しに、きつと皆衝撃を受けるはず。

(水口高校1年 西場 純華さん)



『金メダル男』

内村 光良 著
中央公論新社

この本を一言で表すとすれば、人生山あり谷ありです。主人公の秋田泉一は小学生の時に運動会の徒競走で1位をとった事がきっかけで1番になることの幸福感、優越感にとりつかれます。しかし中学校に入学してからはすっかり1番ということから見放されてしまいます。私は何事もうまくいかないし落ち込んでいる人にとこの本をおすすめしたいです。なぜならこの本はうまくいかない時こそ学があるということを教えてくれるからです。

(国際情報高校2年 園田 有菜さん)



『桜のような僕の恋人』

宇山 佳佑 著
集英社文庫

美容師の美咲に恋をした晴人。そんな二人は意外なきっかけでデートをすることに。自分のために一生懸命な晴人に惹かれた美咲。美咲は人の何十倍もの早さで年老いる難病を発症してしまったのだった。自分の老婆の姿を晴人に見られたくない美咲と別れを告げられても一途に思い続ける晴人、二人の結末とはそして晴人がみたあのかの美咲、あのかの言葉とは。誰もが夢見る二人の愛の深さに注目の一冊です。

(守山高校2年 西山 琴音さん)



『甘い物は脳に悪い』

笠井 奈津子 著
幻冬舎

あなたは、「疲れたときに甘い物」は逆効果であることを知っていますか。この本は、そういった食について思わず驚いてしまうような事実などを紹介しています。体をつくる基となる食事。もちろん精神にも影響を与えます。挫折した時、集中力が欲しい時。そんな時にも食事一つで大きく変わります。いろいろな食べ物が当たり前身近にある現代。何気なく食べている食事の重要性に改めて気づかされる一冊です。

(守山高校2年 大馬 蒼生さん)



『ナースコール！』

川上 途行 著
ポプラ社

リハビリテーション病院で働く玲子は、リハビリテーションで働くことにあまりやりがいを感じられずやる気に欠ける看護師。ある日赴任してきた若い医師に「リハビリってどんな意味？」と聞かれ答えられなかった玲子は必死にリハビリの本当の意味を模索する。未来に不安を感じたり、努力しても報われないことがあったり思い通りにならず苦しむことは、リハビリをしている人だけでなく多くの人が境遇と重ねることができる本です。

(国際情報高校1年 鎌田 優花さん)



『世界から猫が消えたなら』

川村 元気 著
小学館

この作品は猫とふたりの暮らしの主人公の男がある日突然、脳腫瘍で余命わずかだと宣告され、絶望しながら家に帰ると自分とそっくりな姿の男がいた。その男は自分は悪魔だと言いつつ何かを消すかわりに1日命を得るという取引を持ちかけてきて主人公が次々と世界からモノを消していく七日間の出来事を描いた本です。この本はいかに私たちが日常の中で大切なものを見落としているかが分かる作品だと思えます。

(能登川高校 2年生)



『渋谷ギャル店員ひとりではじめてのアフリカボランティア』

栗山 さやか 著
金の星社

「人に二つの手があるのは一つは自分を守るため、もう一つは人を助けるため。」この言葉が深く印象に残ったこの本は皆さんの考え方も変えるでしょう。人生に生き詰まった「さやか」は、広い世界を見ようと世界中を旅しに。気が付くとアフリカでボランティアをしていました。目の当たりにしたのは病気でどんどん死んでいく人の姿でした。誰も一人ではすべてのことはできないけど、誰でも何か一つできる事気づかせてくれた本です。

(MIHO美学院中等教育学校5年 大園 里美さん)



『面白くて眠れなくなる数学』

桜井 進 著
PHP研究所

あなたは数学に出てくる記号の意味について深く考えたことがあるだろうか。私たちは普段数学の授業の中で、ギリシャ文字を使っている。しかし、「学校で文字についての講義を受けたこと」があっただろうか。ほとんどの人は、先生からなんの説明も聞かずやθなどを使っているだろう。この本ではそういった普通数学で深く考えないことを日常生活で使える数学に交えて教えてくれる。

(東大津高校 2年生)



『スマホを落としただけなのに』

志駕 晃 著
宝島社文庫

ある女性の彼氏がタクシーの中でスマホを落としたことで様々なことが起こった。拾い主はスマホを返却するが、ハッカーをしている男だった。男は女性に興味を持ち、ハッキングしたスマホでSNSなどの情報を得て、女性の人間関係を知らうとする。そして、ハッカーはその情報を利用して、女性へと近づいていく。一方、ニュースでは、身元不明の女性の死体が次々と見つかっていく。その事件と男、ハッカーが関係して……。

(国際情報高校 1年生)



『また、同じ夢を見ていた』

住野 よる 著
双葉社

この本は、強気な女の子が先生の一言で「幸せ」とは何が考え、大人からたくさんヒントをもらいながら大人になっていく物語です。ピュアな少女の喜び、挫折、希望、色々な正直な感情にひきこまれます。迷うことや我慢することで成長していく姿に、これから大人になっていく私たちに強い刺激を与えてくれます。さらに、作者の住野よるさんの素直で複雑な言葉が心へスッと入ります。「幸せ」に真正面から向き合える一冊です。

(国際情報高校 2年生)

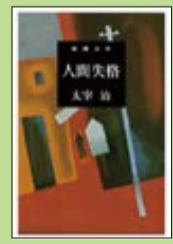


『ぼくらの七日間戦争』

宗田 理 著
KADOKAWA/角川文庫

ある日、東京下町にある中学校の1年2組の男子生徒全員がいなくなりました。親は誘拐されたのかと思いついたが実は子ども達は廃工場に立てこもって「ぼくら」だけの解放区を作っていた。PTAやテレビ、汚い大人たちの悪事もまきこんだ7日間にもおよぶ中学生たちだけの生活。知恵、行動力、団結力、自分たちのもてる全てを使った大人たちとの総力戦。自分が中学1年の時のことを思いながらぜひ読んでください。

(大津高校 1年生)



『人間失格』

太宰 治 著
新潮文庫

「恥の多い生涯を送って来ました。」という一文が有名なこの作品は、太宰自身の人生と結び付けて書かれている。また、作品を書いた一か月後に愛人の山崎富栄と入水自殺をしたことから、「太宰の遺書」と言われ、感慨深いものがある。作品は第一の手記から第三の手記まであり、主人公が酒、薬、女に溺れていく様が描かれている。人に値しないと考える自身に「人間失格」とくだった主人公。読み手の視点次第で様々な読み方ができる一冊。

(国際情報高校 1年生)



『ホームレス中学生』

田村 裕 著
幻冬舎

中学2年生の1学期の始業式の日、13歳の田村少年が家に帰ると、なんとドアに「差し押さえ」の黄色いテープがはられていた。その後兄と姉が帰ってきて、父が帰ってきた。父の口からは驚きの「解散!!」という言葉。兄と姉に迷惑を掛けたくなかった少年は1人で別行動。待っていたのは公園でのホームレス生活である。そこにはたくさんの苦勞や、他人の温かさがあつた。この少年はどのような生き方をしたのだろうか。

(守山高校1年 大橋 侃汰さん)



『レジ待ちの行列、進むのが早いのはどちらか』

内藤 諒人 著
幻冬舎

このご時世、とてもストレスを感じやすい世の中だと思いませんか。そんなあなたに、この一冊。するとく見抜き、ストレスがなくなる心理術をドリル形式で学ぶことができるのです。本書は「観察力」と「推理力」を養うための本ですが、この2つの能力は、ともに人間として賢い生き方をするために必要不可欠な能力なのです。この本を手にとれば、あなたもこれからはもっと賢く生きられるでしょう。

(草津高校3年 大西 絢也さん)



『都会(まち)のトム&ソーヤ』

はやみね かおる 著
講談社

『都会のトム&ソーヤ』は、中学2年生の内人と創也の男子2人組が、ゲームを作るという1つの目標に向かって協力して挑んでいく物語です。今、何かしたくても挑戦できずにいる人、1人で何かをするのが怖い人、そういった人たちに、「やりたいと思ったことは何でも挑戦してみたいんだ!」と思わせてくれるような、勇気をくれるような本です。ぜひ一度読んでみて下さい。

(国際情報高校 2年生)



『パラレルワールド・ラブストーリー』

東野 圭吾 著
講談社文庫

私がおすすめする本は東野圭吾さんの『パラレルワールド・ラブストーリー』です。この本の主人公は大学時代、電車に乗っている女性のことが気になり始めます。しかし、その女性は主人公の親友の恋人だったのです。嫉妬に苦しむ主人公。ところがある日の朝、目を覚ますと彼女は主人公の恋人として隣にいました。どちらの世界が現実なのか解いていく物語です。脳内フル回転で考えさせられる物語なので、ぜひ読んでみて下さい。

(近江兄弟社高校 2年生)



『フォルトウナの瞳』

百田 尚樹 著
新潮文庫

この本は、人の死の運命が見えてしまう青年、木山慎一郎の物語です。彼は、ある時から人が透けて見えるようになります。透けて見える人にはみんな同じ運命が待っています。それは死です。彼はなんとか助けるために、運命を変えようとします。しかし、人を助け、運命を変えるほど彼の体に異変が起こり始めます。そんな時、小さな子供の体が透けて見えて……。最後まで展開が気になる本です。

(大津高校1年 西村 風夏さん)



『時給三〇〇円の死神』

藤まる 作
双葉社

主人公である高校生、佐倉真司は同級生の花森雪希から、死者の未練をはらしてあの世へ行くキッカケを作る「死神」のアルバイトに誘われる。不信感を抱きながらもこのアルバイトを引き受けた彼は、たくさんの死者と出会う中で自分の中にある大切なものの存在に気付かされる。人生とは何か、自分の大切なものは何かと考えさせられるようなストーリーと、主人公の気持ちの変化がとても面白く感動する物語である。

(大津高校 1年生)



『人を動かす「色」の科学』

松本 英恵 著
SBクリエイティブ

目の前に広がる世界は「色」で溢れている。当たり前のようにあるそれに、私たちは今日も無意識に影響されている。例えば、多くのカフェにあるコーヒー。ただ苦くて茶色いだけではない。一息ついた時「『とりえずコーヒーでも』」と思ったことはないか。こういった気持ちも、茶色という「特別な色」の効果がある。「色の世界」は、あらゆることに「役立つ」のだ。この一冊で、色の「身近で不思議な世界」にふれてみてはどうか。

(守山高校 2年生)



『三日間の幸福』

三秋 健 著
KADOKAWA/メディアワークス文庫

主人公は「クスノキ」という名前の大学生です。お金に困った主人公は寿命を買い取ってくれるお店に行き、最低買取価格の1年につき1万円で寿命を売ってしまいます。そして残り3カ月で今までの人生を見直し、監視員の「ミヤギ」と共に自分が本当にしたいことを考え始めます。自分の生き方を改めて考え直し行動する主人公を見て、読み終えたら色々な事に挑戦したくなるような物語です。

(大津高校3年 藤本 晴菜さん)



『母性』

湊 かなえ 著
新潮文庫

「なぜ、子どもを愛するのか？」そんな問いが冒頭に出てきますが、この作品の見どころは、母親や娘、父親や祖母など多くの視点からの「愛」を良くも悪くも様々な形で表現されている作品となっています。特に母親であるルミ子は自分の母親を異常に愛しているので娘には間違った愛し方をしてしまいます。そんな母親と娘の不気味な愛を描いており、現実的にありえそうな空気感が伝わってくる作品となっています。

(大津高校3年 大上 夏奈さん)



『ゾウの時間 ネズミの時間』

本川 達雄 著
中央公論新社

動物には、たくさんのサイズが違ったものがある。ゾウのような大きいものもいれば、ネズミのような小さいものもいるのだ。さらには、「ゾウにはゾウの時間」、「ネズミにはネズミの時間」が存在する。動物のサイズによって流れる時間が違う。つまり、それぞれの「世界観がまったく違う」ということなのだ。「サイズという視点を通して、生物を、」さらには人間について考えてみてはどうか。

(守山高校1年 久保 寛人さん)



『夜行』

森見 登美彦 著
小学館

彼女が消えた夜から十年。あの日一緒に祭りに行った五人が集まり、空白の十年間を語り合う。五人がそれぞれの場所に出会っていた謎の連作絵画「夜行」とは何なのか、また彼女に会うことができるのか。この物語の多くは闇の中に隠されており、解決しません。解釈の仕方によって自分だけの夜行の世界が広がるところが魅力です。何回も読み返したくなるような話になっているので、ぜひ読んでみてください。

(大津高校 1年生)



『93番目のキミ』

山田 悠介 著
河出文庫

この本は一人の大学生と感情を持つロボットが繰り広げる友情物語です。しかし、単なる友情物語ではなく感情を持つロボットとの関わり方を考えるきっかけになる本でもあります。今の世の中、携帯があれば本当の別れはあまりないように感じますが、覚悟を決めた別れはとても重く、切ない。特に最後のシーンはまるで自分の目で見ているような表現でロボットのシロのシリアルナンバー93は私にとって忘れ難い数字となりました。

(水口高校1年 川本 真瑚さん)